

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	各教科で指導主事を招いた研究授業・研究協議を行い、教科内での共有を大切にしながら生徒が「分かる授業」づくりを目指す。 生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとに、授業改善を行い、生徒が主体的に学習に取り組める「魅力ある授業」づくりを目指す。	全教科ごとに研究授業・研究協議を行い「分かる授業」づくりへの取り組みを行うことができた。グループ学習やペア学習などの学習法を取り入れるなどの工夫改善にも取り組むことができた。今後、これらの工夫改善を学校全体へ広げていきたい。	B
豊かな心	体験活動を通して道徳性の育成を図る。道徳の授業や日常生活の中で自他の生命や人権の尊重、規律ある生活、自己の将来、きまりの意義などの理解を深めていくようにする。道徳の題材には、生徒が共感できる魅力的な教材を活用する。	生徒の発達段階や学年の状況に合わせた道徳教材を取り入れるように努め、教材やDVDをもとにした意見交換など生徒が主体的に取り組む活動を行った。全校で取り組んだ人権講話は、クラスに掲示するなど人権意識を高める工夫をした。今後はさらにTPOに応じた行動がとれるようにすること、集団や社会に貢献する意識を高め	B
健やかな体	新体力テストの結果を基に、体力向上に向けて生徒一人ひとりの目標を設定し、実践する。自分の興味関心にしたがって、学校内外の活動に積極的に参加したり、授業や行事、部活動等を通して、運動に親しむことができる生徒を育てる。	新体力テストの結果を活用し、生徒一人ひとりが自分の目標を設定して、体力向上に向け授業等で実践できた。また一部の部活動でも、新体力テストの結果を取り入れたトレーニングを行い、有効であった。今後は、健康管理やけがの防止についても考えさせ、運動に親しみ積極的に取り組む生徒を育てていく。	B
特別支援教育	特別支援委員会の機能を生かし、全職員が課題のある生徒への理解を深める。個別の指導計画を随時更新するとともに、関係職員で共有し個々の生徒の状況を把握するとともに、個に応じた指導ができるようにする。	生徒一人ひとりの特性に合わせた指導、補修の実施、高校と連携した進路指導等を可能な範囲で行った。 次年度、校内共通のチェックリスト作成、特別支援教室での学習支援、SCとの連携、個別の指導計画の有効な活用などを推進する。	B
児童・生徒指導	「共感」の気持ちを大事にして生徒や保護者の対応において聞くことを重視する。 生徒一人ひとりに寄り添い、「誉める」「認める」に心がけ、生徒の自己肯定感の向上に努める。	常に生徒一人ひとりの言動を観察し、「誉める、認める」ことを心がけると共に「叱る」ことも行った他、教育相談の時間も有効に活用し生徒の現状把握に努め、対応した。また気になる生徒の保護者とは連携を取りながら見守る等も行った。今後は保護者連携、子どもへの配慮について、強化をしていきたい。	A
キャリア教育	3年間を通して、よりよい生き方や将来の生活と職業について考えたり調べたりする活動を通して、現在の生活を見直し、自立と共生の精神を養う。職業講話(1年)、職場体験学習(2年)を通じて社会への視野を広げ、人との接し方やマナーを身に付ける。そのうえで進路学習を進め、3年では自身の希望や長所を踏まえて、自分に合った進路を考える。	職業体験では、新しい職場も開拓し、生徒たちは貴重な体験をすることができ、職業講話でも様々な職種の話聞くことができた。今後はより計画的に進路学習を行い、3年間でよりよい生き方を考えていく内容にしていくよう努めたい。	B
地域連携	HPや学校便りを通じ学校の様子を保護者や地域と共有し、同じ目線で話ができるようにする。今まで行っているボランティア活動のPR方法を進め、参加生徒を増やすことを考える。	厚生委員会では花植えボランティアに参加したり、地域の防災訓練に部他の部活動で地域行事に参加した。ただし、ボランティアに対する意識や実績はまだ十分とは言えないため、今後は地域との連携の重要性やボランティアの意義等を授業内外で継続的に指導していきたい。	B
人材育成・組織運営	メンターチームを組織し、中堅職員をリーダーとしながら経験の少ない職員の育成を補助する。報告・連絡・相談を日常化し、複数による判断を励行するとともに、日々の職務の遂行が人材育成に直結していることを意識したOJTを行う。既存の職員組織の定期的な評価と見直し・改善を怠らない。	メンターチームでの活動や各種研修への参加を通して若手への育成に努めた。また、通常業務の中でも必要に応じて臨機応変に助言・指導を行った。	C
ブロック内相互評価後の気付き	「確かな学力」について、研究授業を行うだけでなく、生徒による授業評価を取り入れ、授業改善を行っている点が素晴らしいと思います。3年間で計画的にキャリア教育を実践し、職業体験学習進路学習を効果的に進め、生徒が自分の進路と向き合う指導が積み重ねられている。小学校のキャリア教育との繋がりがもたらすことによりよいと思います。体験活動を重視した教育活動や、地域や保護者との連携の充実が、9年間で育てる子ども像「人とのつながりを大切にすること」の実現に繋がると考えます。		
学校関係者評価	地域防災訓練等地域連携は進んできていると思われる。しかし学校及び生徒の防災への意識としてはどうか疑問である。東日本大震災からの教訓が薄れてきているのではないかと。もう一度原点に立ち返ってほしい。 体育祭や文化祭等地域に開かれた行事への取り組みはよく、生徒の挨拶等もしっかりしていて、教職員と生徒の関係の良さがうかがえる。		
学校経営中期取組目標振り返り	新たな中期計画の始まりの年であったが、スタートの遅れから年度当初に中期学校経営計画を浸透させることができなかった。しかし、節目節目で職員会議や学年連絡会など様々な場面で経営方針を発信することでそれぞれの職員に意識してもらうことができたのではないかと。次年度以降、今年度の動きをさらに向上させ、中期学校経営計画の具現化、学校教育目標の具現化に向かっていきたい。		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	各教科で指導主事を招いた研究授業・研究協議を行うようにし、教科内での共有を大切にしながら生徒が「分かる授業」づくりを目指す。 生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとに、授業改善を行い、生徒が主体的に学習に取り組める「魅力ある授業」づくりを目指す。	指導主事を招いた研究授業・研究協議を行い、「分かる授業」づくりを目指す機会を設けることができた。また、生徒による授業評価をマークシート化し、授業改善のための資料を速やかに提供することができた。一方、教科会の時間や「魅力ある授業づくり」のための時間は十分に確保できたとはいえない。	B
豊かな心	道徳の授業で生徒が共感できる魅力的な教材を活用したり、体験活動を通して自他の生命や人権の尊重、規律ある生活、自己の将来、きまりの意義などの理解を深めていくようにする。また、TPOに応じた行動がとれるようにすること、集団や社会に貢献する意識を高めることを目指し、道徳の教材や学級の指導に努めていく。	道徳の授業や日常生活で人権を尊重していく取組は向上している。また、個々の生徒の行動も落ち着いていて暴力なども見られなくなった。しかし、集団となるとTPOに応じた行動が十分できているとは言えない場面もあった。今後は家庭との連携を一層深めて生徒が心豊かに成長するよう努めていく。	B
健やかな体	新体力テストの結果を基に、体力向上に向けて生徒一人ひとりの目標を設定し、実践する。自分の興味関心にしたがって、学校内外の活動に積極的に参加したり、授業や行事、部活動等を通して、運動に親しむことができる生徒を育てる。また、健康管理やけがの防止について考えさせ、運動に親しみ積極的に取り組む生徒を育てていく。	生徒一人ひとりが自分の目標を設定して、体力向上に向け、授業や行事、部活動等で運動に親しむことができた。今後は、健康管理やけがの防止、安全防災についての意識を育て、積極的に取り組む生徒を育てる。	B
特別支援教育	特別支援委員会の機能を生かし、全職員が課題のある生徒への理解を深める。個別の指導計画を随時更新し、個々の生徒の状況を把握するとともに、個に応じた指導ができるようにする。校内共通のチェックリスト作成、特別支援教室での学習支援、SCとの連携、個別の指導計画の有効な活用などを推進する。	生徒一人ひとりの特性に合わせた指導、補修の実施、高校と連携した進路指導等を可能な範囲で行った。 次年度、校内共通のチェックリスト作成、特別支援教室での学習支援、SCとの連携、個別の指導計画の有効な活用などを推進する。	B
児童・生徒指導	「共感」の気持ちを大事にして生徒や保護者の対応において聞くことを重視する。 生徒一人ひとりに寄り添い、「誉める」「認める」に心がけ、生徒の自己肯定感、自己有用感の向上に努める。また他者を理解し、助け合う精神を育む。	保護者との連絡を密にとり、家庭・学校が連携・協力して生徒への指導を行った。 また、集団活動を行う上でのルール・マナーの指導を重点的に行った。	A
キャリア教育	朝総合、職業・進路学習、平和学習、校外学習をメインに、3年間の見直しをもって探究的な学習に取り組む。自ら課題を設定し、よりよく問題を解決する能力や資質を育成し、学び方やものの考え方を身に付ける。そこから自己の生き方を考えることが出来るように、学活・道徳・各教科の横断的で総合的な学習も取り入れる。	朝総合、職業・進路学習、平和学習、校外学習への取組により、3年間を通して継続的に課題設定や問題解決能力・資質を育成し、学び方やものの考え方を身に付けさせる指導を行った。各取組において学活・道徳・各教科とも連携を図り、横断的で総合的な学習を取り入れようとした。	B
地域連携	HPや学校便りを通じ学校の様子を保護者や地域と共有し、同じ目線で話ができるようにする。今まで行っているボランティア活動のPR方法を進め、参加生徒を増やす。また、ボランティア活動を通じ、地域貢献の意識を高める。	地域のイベント、防災訓練、はなうえボランティアなどに積極的に参加する生徒が増えた。 学校だよりを通じ学校の様子を保護者や地域の伝えるとともに、夜の懇談会等で地域の方々やスマホの使い方などの問題について同じ目線で話し合うことができた。	B
人材育成・組織運営	メンターチームを組織し、中堅職員をリーダーとしながら経験の少ない職員の育成を補助する。報告・連絡・相談を日常化し、複数による判断を励行するとともに、日々の職務の遂行が人材育成に直結していることを意識したOJTを行う。既存の職員組織の定期的な評価と見直し・改善を怠らない。	日頃から報告・連絡・相談を密に行い、適宜助言・指導を行うことで、日常の行動を通して若手の育成に努めた。一方、メンターチームとしての活動はほとんど実施できなかった。	B
いじめへの対応	「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事場面で活用する。 生徒一人ひとりの状況について把握するように努め、校長をリーダーに担任や各学年教諭、生徒指導専任教諭、生徒指導部からなるチームの支援を進める。	日頃から、授業や行事・アンケートと通じ、生徒一人ひとりに寄り添い、早期に生徒の置かれている状況の把握に努めた。また、いじめを認知した時、「いじめ対策基本方針」をもとに、学校長を中心にチームでたいおうできた。	B
ブロック内相互評価後の気付き	「確かな学力」について、研究授業を行うだけでなく、生徒による授業評価を取り入れ、結果をもとに改善を図る取り組みが素晴らしいと感じる。生徒が真剣に学習に臨むことに繋がってくると思う。3年間で計画的にキャリア教育を実践し、職場体験学習や進路学習を効果的に進め、生徒が自分の進路と向き合う指導が段階的に積み重ねられている。小学校のキャリア教育と繋がりがもたらすことによりよいと思う。体験活動を重視した教育活動や、地域・保護者との連携の充実が、9年間で育てる子ども像「人とのつながりを大切にすること」の実現に繋がると考える。		
学校関係者評価	昨年同様、地域防災訓練等地域連携は進んできていると思われる。また、定期的に学校参観の機会を設けたり、地域向けに学校づくりアンケートを行ったり開かれた学校づくりの意識も感じられる。 体育祭や文化祭等地域に開かれた行事への取り組みはよく、生徒の挨拶等もしっかりしていて、教職員と生徒の関係の良さがうかがえる。		
学校経営中期取組目標振り返り	中期計画の2年目の年であり、具体的取組についても各担当が作成し、全体で共有を図るところからスタートできた。そのため全教職員で中期計画を意識した1年になったことが感じられる。また、「誰もが、安心して、豊かに生活できる学校」についても、随時生徒に向け発信し、言葉として定着できたと思われる。次年度は中期計画のまとめの年となるため、中期学校経営計画の具現化、学校教育目標の具現化に向かうと共に次期3年間を見据えていきたい。		

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	各教科で指導主事を招いた研究授業・研究協議等を引き続き行い、生徒が「分かる授業」づくりを目指す。また、生徒による授業評価の集計結果をもとに各教科で授業改善を行い、生徒が主体的に学習に取り組める「魅力ある授業」づくりを目指す。そのため、教科会や教材研究のための時間確保にも留意する。		
豊かな心	道徳の授業で生徒が共感できる魅力的な教材を活用したり、体験活動を通して自他の生命や人権の尊重、規律ある生活、自己の将来、きまりの意義などの理解を深めていくようにする。また、TPOに応じた行動がとれるようにすること、社会に貢献する意識を高めることを目指し、道徳の教材や学級の指導に努めていく。		
健やかな体	自分の興味関心に従い、学校内外の活動に積極的に参加したり、授業や行事、部活動等を通して運動に親しむことができる生徒を育てる。また、自らの健康管理やけがの防止、安全防災についても意識を高めることを目指す。		
特別支援教育	特別支援委員会の機能を生かし、全職員が課題のある生徒への理解を深める。個別の指導計画を活用し、個に応じた指導ができるようにする。また、校内チェックリストを活用して、不登校状況や特別支援教室での学習支援、SCとの連携、他機関との連携などの状況を共通理解できるようにする。		
児童・生徒指導	「共感」の気持ちを大事にして生徒や保護者の対応において聞くことを重視する。 生徒一人ひとりに寄り添い、「誉める」「認める」に心がけ、生徒の自己肯定感、自己有用感の向上に努める。また他者を理解し、助け合う精神を育む。		
キャリア教育	朝総合、職業・進路学習、平和学習、校外学習をメインに、3年間の継続性を持って探究的な学習に取り組ませる。課題設定・問題解決能力や資質を育成し、学び方やものの考え方を身に付けさせる指導を行う。その学びを生かして、さらに多面的に自己の生き方を考えることが出来るように、学活・道徳・各教科との横断的で総合的な学習も取り入れる。		
地域連携	学校だより等を通じ、学校の様子を保護者・地域に発信し、同じ目線で話ができるような場を増やす。 地域のボランティア活動への参加者をさらに増やすために、PR活動を積極的に進める。また、ボランティア活動を通じ、地域貢献の意識を高める。		
人材育成・組織運営	メンターチームを組織すると共に、報告・連絡・相談を日常化し、日々の職務の中で助言・指導を適宜行うことで若手の育成に努める。また学校の現状をしっかりと分析し、既存の職員組織の定期的な評価と見直し・改善に努める。職員室業務アシスタントの導入により各教職員の業務負担の30%削減を目指す。		
いじめへの対応	「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事場面で活用する。 生徒一人ひとりの状況について把握するように努め、「いじめ基本方針」をもとに、校長をリーダーに担任や各学年教諭、生徒指導専任教諭、生徒指導部からなるチームの支援を進める。		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り			

重点取組分野	平成28年度	
	具体的取組	自己評価結果
確かな学力	124	<160
		112 <153

重点取組分野	平成29年度	
	具体的取組	自己評価結果
確かな学力	124	<160
		112 <153

重点取組分野	平成30年度	
	具体的取組	自己評価結果
確かな学力	124	<160
		112 <153